

## 令和5年度子どもの読書活動に関するアンケート調査結果（概要）について

### 1 目的

「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン第4次計画」の改訂に当たり、子どもの読書に関する実態と課題を把握し、今後の施策に生かす。

### 2 調査範囲

#### (1) 地域

鳥取県内全域

#### (2) 対象者

##### ア 個人

- ・ 県内の保育所・幼稚園・認定こども園の年長児の保護者
- ・ 県内の小学校・義務教育学校の児童のうち小学3年生、義務教育学校3年生
- ・ 県内の小学校・義務教育学校の児童のうち小学6年生、義務教育学校6年生
- ・ 県内の中学校・義務教育学校の生徒のうち中学3年生、義務教育学校9年生
- ・ 県内の高等学校の生徒のうち高校2年生

##### イ 事業所

- ・ 保育所、幼稚園又は認定こども園
- ・ 小学校、中学校、義務教育学校又は高等学校

### 3 報告を求める者

#### (1) 個人

約2,000人

※学校等への負担を軽減するため、年長児保護者・児童・生徒の報告数は、信頼度95%、標準誤差が±5%の条件を満たすために必要となる最低限の人数とした。

<内訳>

区分	保育所・幼稚園 ・認定こども園 年長児の保護者	小学校・義務 教育学校3年生	小学校・義務教 育学校6年生	中学校3年生 ・義務教育学校 9年生	高等学校2年生
報告者数	約400人	約400人	約400人	約400人	約400人

#### (2) 事業所

上記アの調査対象者が所属する保育所・幼稚園・学校等 114施設

<内訳>

区分	保育所・幼稚園 ・認定こども園	小学校・義務 教育学校	中学校・義務 教育学校	高等学校
報告施設数	46園(所)	34校	18校	16校

### 4 調査対象者の抽出方法（無作為抽出）

#### (1) 個人

##### ア 年長児保護者

保育所等の年長児の保護者は、鳥取県人口動態統計月別出生数の平成30年4月～平成31年3月分を合計したものを母集団情報とし、同期間中の県東部・中部・西部の圏域別の出生数に比例して報告者数を割り当て、圏域ごとに鳥取県子ども家庭部が作成している保育所・認定こども園（保育所型）の一覧及び令和5年度学校基本調査をもとに鳥取県教育委員会が作成している幼稚園・認定こども園（幼保連携型）の一覧から保育所・幼稚園等を単位として系統抽出した。（選出された保育所・幼稚園等の年長児クラスに在籍する園児の保護者は全員調査対象とした。）

##### イ 小学3年生・6年生

令和5年度学校基本調査の対象学年の児童数を母集団情報とし、県東部・中部・西部の圏域ごとの市部・郡部別の児童数に比例して報告者数を割り当て、令和5年度学校基本調査をもとに鳥取県教育委員会が作成している学校一覧から学級単位で系統抽出した。

## ウ 中学3年生・高校2年生

令和5年度学校基本調査の対象学年の生徒数を母集団情報とし、公立、私立、国立の学校設置者に比例して報告数を割り当て、公立はさらに県東部・中部・西部の圏域に割り当てて、令和5年度学校基本調査をもとに鳥取県教育委員会が作成している学校一覧から学級単位で系統抽出した。

## (2) 事業所

### ア 園(所)

上記(1)アで系統抽出した保育所・幼稚園・認定こども園とした。

### イ 学校

上記(1)イ、ウで系統抽出した小学校・中学校・義務教育学校・高等学校とした。

## 5 調査方法

### (1) 個人

鳥取県から保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校又は高等学校を通じ、調査対象者に調査票を配布し、調査対象者がオンラインを利用し回答する方法により調査を行った。  
※年長児保護者はとっとり電子申請システム、児童生徒はGoogleフォームから回答。

### (2) 事業所

鳥取県から保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校又は高等学校へ調査票を配布し、調査対象の園(所)又は学校がオンラインを利用し回答する方法により調査を行った。  
※園(所)はとっとり電子申請システム、各学校はGoogleフォームから回答。

## 6 調査期間

令和6年1月26日から2月21日まで

## 7 調査内容

### (1) 個人

#### ア 保育所、幼稚園又は認定こども園の年長児の保護者

- ・年長児との続柄
- ・ブックスタート・ブックセカンド事業に関する事項
- ・家庭での読書に関する事項
- ・公立図書館の利用に関する事項
- ・電子書籍の利用に関する事項
- ・保護者の読書習慣に関する事項

#### イ 小学校、中学校、義務教育学校又は高等学校の児童生徒

- ・令和5年4月1日以降の読書習慣に関する事項
- ・過去の読書習慣に関する事項
- ・公立図書館の利用に関する事項
- ・学校図書館の利用に関する事項
- ・電子書籍の利用に関する事項

### (2) 事業所

#### ア 保育所、幼稚園又は認定こども園

- ・読み聞かせの実施に関する事項
- ・選書に関する事項
- ・読書活動の推進に関する事項

#### イ 小学校、中学校、義務教育学校又は高等学校

- ・読書活動の推進に関する事項
- ・特別支援学級の設置
- ・所蔵資料に関する事項
- ・公立図書館の利用に関する事項

## 8 回収結果等

	対象	標本数	有効回答数	回収率
個人	保育所、幼稚園又は認定こども園の年長児（令和5年4月1日時点で満5歳の者をいう。）の保護者	(人) 1,010	(人) 325	(%) 32.2
	小学校3年生又は義務教育学校3年生の児童	451	394	87.4
	小学校6年生又は義務教育学校6年生の児童	447	439	98.2
	中学校3年生又は義務教育学校9年生の生徒	506	399	78.9
	高等学校2年生の生徒	508	451	88.8
	合計	2,922	2,008	68.7
事業所	保育所、幼稚園又は認定こども園	(園・所) 46	(園・所) 28	(%) 60.9
	小学校又は義務教育学校	(校) 34	(校) 32	(%) 94.1
	中学校又は義務教育学校	18	7	38.9
	高等学校	16	15	93.8
	合計	114	82	72.6

### (本報告の表記等について)

- ・ n は回答に対する回答者数で、比率算出の基数である。
- ・ 回答数の合計が回答者数（n）より少ない場合は、回答者数（n）から回答数を除いた数を「無回答」とする。
- ・ 各選択肢の回答率（%）は、小数点以下第二位を四捨五入しており、単一回答の間では、合計が100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の間では、回答者数を回答率算出の基礎とし、選択肢の構成比を表すものではないため、各選択肢の回答率の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 学年ごとの調査結果の分析について、保育所・幼稚園・認定こども園の年長児の保護者は「年長児保護者」、小学3年生、義務教育学校3年生は「小学3年生」、小学6年生、義務教育学校6年生は「小学6年生」、両学年の結果をまとめて分析するときは「小学生」とし、中学3年生、義務教育学校9年生は「中学生」、高校2年生は「高校生」と表記する。

## 9 調査結果の概要

※アンケート調査結果の詳細は別紙のとおり。

※文末の（ ）は、別添アンケート調査結果の設問番号を記載する。

### (1) 個人

#### ア 年長児保護者

##### (ア) 家庭での読書

- ・ 子どもが本を読むこと（読んでもらうこと）について、「好き」と回答した割合が約9割(88.9%)であった。（問2）
- ・ ブックスタート事業（\*）等で配られた絵本の活用について、「よく使った」又は「ときどき使った」と回答した割合が約8割(83.3%)であった一方、「あまり使っていない」又は「使っていない」と回答した割合が約2割（16.6%）あり、配布された絵本を活用していない家庭が平成29年度調査より12.3ポイント増加した。（H29：4.3%→R5：16.6%）（問3）  
\*すべての乳幼児と保護者に、自治体が行う健診等の際に絵本を手渡し、親子で一緒に絵本を読む大切さ等を伝える事業。
- ・ 家庭で読み聞かせを行わない割合は、約1割（9.5%）で、平成29年度調査と比較すると、3.7ポイント増加した。（問4）

<家庭において、乳幼児の子どもに絵本などの読み聞かせをしたり一緒に本を読んだ日が1週間で「0回」と回答した保護者の割合>

	今回 (R5年度)	前回 (H29年度)	前々回 (H24年度)
年長児保護者	9.5%	5.8%	10.4%

### (イ) 公立図書館の利用

- ・公立図書館を「利用しない」と回答した割合が約3割(34.8%)と最も高い。(問7)
- ・利用しない理由としては、「幼稚園・保育所・認定こども園で本を借りられるから」が約6割(60.2%)、「借りたり返したりするのが面倒だから」が約5割(54.0%)であった。(問9)

### (ウ) 電子書籍の利用

- ・読み聞かせに電子書籍を「利用したことがない」割合は約9割(91.4%)で、平成29年度調査(読み聞かせへの電子端末(タブレットやスマートフォンなど)を「利用しない」割合(83.8%))と比較しても、読み聞かせにおける電子書籍の利用は進んでいない。(問10)

### (エ) 保護者の読書習慣

- ・保護者の読書習慣については、「ほとんど読まない」又は「まったく読まない」と回答した割合が5割以上(55.4%)で、保護者が読書をしない家庭が過半数を超えている。
- ・平成29年度調査と比較すると、「よく読む」と回答した割合が5.4ポイント減少した。(H29:14.6%→R5:9.2%)(以上、問12)

## イ 児童生徒

### (ア) 読書に対する意識

- ・読書を「好き」又は「どちらかというが好き」と回答した割合は、次のとおりであった。
  - ・小学3年生は約9割(89.0%)で、平成29年度調査との大きな差はみられない。
  - ・小学6年生は約8割(77.0%)で、平成29年度調査より6.2ポイント減少した。
  - ・中学生は約8割(82.2%)で、平成29年度調査と大きな差はみられない。
  - ・高校生は約7割(67.4%)で、平成29年度調査より7.8ポイント減少した。(以上、問1)

#### <読書が好きな児童・生徒の割合>

	今回 (R5年度)	前回 (H29年度)	前々回 (H24年度)
小学3年生	89.0%	90.1%	89.7%
小学6年生	77.0%	83.2%	78.4%
中学3年生	82.2%	80.7%	83.3%
高校2年生	67.4%	75.2%	80.4%

- ・類似調査(令和5年度全国学力・学習状況調査(文部科学省))によると、本県の読書が好きな児童・生徒の割合は、全国と同程度である。

#### <参考>令和5年度全国学力・学習状況調査(児童・生徒質問紙調査結果)より

	鳥取県	全国	差(%)
小学6年生	70.8%	71.8%	△1.0
中学3年生	67.9%	66.0%	1.9

- ・読む本を選ぶときは、すべての調査対象において「自分の好きな本を選ぶ」と回答した割合が約9割と最も高い。中学生・高校生では、学校や図書館から勧められた本を選ぶ傾向は低くなり、映画やドラマになった本やTikTokやInstagram等のSNSで話題になった本を選ぶ傾向が高い。(問4)

### (イ) 不読率(1ヶ月に1冊も読まない割合)

- ・1ヶ月に「読み終わった本が1冊以上ある」又は「途中まで読んだ本がある」と回答した割合は、小学生では約9割と高く、平成29年度調査と大きな変化は見られない。
- ・「まったく読んでいない」と回答した割合は、高校生では約4割(35.0%)で、平成29年度調査から5.7ポイント増加した。
- ・中学生・高校生は小学生に比べ不読率が高い傾向にある。(以上、問6)

#### <1ヶ月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合>

	今回 (R5年度)	前回 (H29年度)	前々回 (H24年度)
小学3年生	3.0%	4.5%	3.2%
小学6年生	9.8%	7.2%	8.5%
中学3年生	16.0%	14.5%	17.0%
高校2年生	35.0%	29.3%	21.3%

- ・類似調査（第 68 回学校読書調査（全国学校図書館協議会））によると、本県の児童・生徒の不読率は全国と比較して低い傾向にある。

＜参考＞第 68 回学校読書調査より

「あなたは 5 月 1 か月の間に、本を何冊ぐらい読みましたか」の設問に対して「0 冊」と回答した割合

	2023 年	2022 年	2021 年
小学生（4 年生～6 年生）	7.0%	6.4%	5.5%
中学生	13.1%	18.6%	10.1%
高校生	43.5%	51.1%	49.8%

#### （ウ）過去の読書習慣

- ・小さい頃、家の人に絵本などを読んでもらった経験については、全体の結果では、「よく読んでもらった」と回答した割合は約 7 割（65.9%）であった。（問 1 0）

#### （中学 3 年生・高校 2 年生を対象とした調査）

- ・小学生の時に「とてもよく読んだ」又は「よく読んだ」と回答した割合は、中学生では約 8 割（75.2%）、高校生では約 7 割（71.0%）であった。
- ・小学生の時に「とてもよく読んだ」と回答した高校生の割合は 37.5%であるが、中学生の時に「とてもよく読んだ」と回答した高校生の割合は 22.4%に下がり、学年が上がるにつれて読書をする機会が減ることがわかる。（以上、問 1 1）

#### （エ）公立図書館の利用

- ・月に 1 回以上公立図書館を利用する割合は、小学 3 年生では 5 割（50.0%）、小学 6 年生では約 3 割（29.9%）、中学生で約 2 割（22.6%）、高校生では約 1 割（13.3%）となり、学年が上がるにしたがって公立図書館の利用頻度が減る傾向がみられる。
- ・平成 29 年度調査と比較すると、すべての調査対象で「利用しない」と回答した割合は減少した。（以上、問 1 2）
- ・中学生・高校生が公立図書館に行く理由として、「図書館で宿題や勉強をするから」が 5 割を超えている。（中学 3 年生：50.4% 高校 2 年生：51.7%）
- ・小学生は「図書館には読みたい本があるから」が 7 割と最も高く（小学 3 年生：74.7% 小学 6 年生：71.7%）、学年が上がるにしたがって、公立図書館を利用する理由に変化が見られる。（以上、問 1 3）

#### （オ）学校図書館の利用

- ・学校図書館の利用頻度は、小学生では「週に 1～2 回」と回答した割合が最も高く、小学 3 年生で約 6 割（63.2%）、小学 6 年生で約 5 割（45.3%）である一方、「利用しない」と回答した割合が、中学生は約 3 割（27.8%）、高校生は約 4 割（43.2%）であり、学年が上がるに学校図書館を利用しない割合が高くなっている。（問 1 5）
- ・学校図書館に行く理由として、小学生、中学生では「図書館には読みたい本があるから」と答えた割合が高い。（小学 3 年生：80.3%、小学 6 年生：67.1%、中学 3 年生：58.0%）また、小学生・高校生では「授業で行くから」と回答する割合が 4 割を超えており、授業での利用が学校図書館へ行く理由のひとつとなっている。（小学 3 年生：42.3% 小学 6 年生：43.9% 高校 2 年生：44.1%）（問 1 6）
- ・図書館に行かない理由として、全体の結果では、「本を読みたいと思わないから」（37.7%）が最も高く、次いで「本は買って読んでいるから」（25.8%）、「借りたり返したりするのが面倒だから」（17.2%）の順となった。（問 1 7）

#### （カ）電子書籍の利用

- ・電子書籍を「よく利用している」又は「利用したことがある」と回答した割合は、小学生で約 4 割、中学生・高校生では 5 割を超えており、学年が上がるにしたがって利用率が高くなった。（小学 3 年生：41.6% 小学 6 年生：41.4% 中学 3 年生：60.7% 高校 2 年生：59.6%）。（問 1 8）

(2) 事業所（※各対象の回答数が50未満のため参考値として示す。）

ア 保育所・幼稚園・認定こども園

(ア) 読み聞かせの実施

- ・回答のあったすべての園（所）ではほぼ毎日、読み聞かせを実施している。（問1、問3）
- ・回答のあった園（所）すべてで保育士・幼稚園教諭等が読み聞かせを実施しており、その他、読書ボランティアによる読み聞かせも5割（50.0%）あった。（問2）

(イ) 選書

- ・園（所）で購入する絵本や児童書は、「新聞や雑誌、インターネット等で紹介された本から選ぶ」と回答した割合が約6割（57.1%）、次いで「図書館のおすすめ本を参考にする」が約4割（35.7%）、「書店に相談し、おすすめの本から選ぶ」が約3割（25.0%）の順となった。
- ・その他（自由記入）では、職員が子どもの興味や園の活動等に合わせて選ぶ、絵本のカタログを見て選ぶ等の記述がみられ、入手した情報を参考にしながら選書を行っている。（以上、問4）

(ウ) 読書活動の推進

- ・読み聞かせの他に読書への関心を高めるための取組として、「絵本コーナーの設置」が約9割（85.7%）、「家庭への絵本の貸出」が約8割（82.1%）と高い。その他（自由記入）として、絵本だよりを発行し家庭へ読み聞かせの大切さを啓発している、保育参加日の時に親子で絵本を読む時間を設ける等との回答もあり、園（所）や家庭で絵本の利用の推進に積極的な取組が見られる。（問5）
- ・読書活動の推進に取り組む上で課題と感じていることは、「読み聞かせ等に関する職員研修の充実」（53.6%）、「園（所）で購入する絵本や児童書の選書」（46.4%）が約5割となり高い割合となった。（問7）

イ 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校

(ア) 読書活動の推進

- ・子どもたちの読書への関心を高めるために、全校種において「本の展示」「おすすめ本の紹介」「授業での図書館利用」「図書館の利用ガイダンス」に取り組む割合が約9割と高い。（問1）
- ・読書活動の推進に取り組む上で課題と感じていることは、全校種で、「ICTを活用した読書推進の取組」が約7割と最も高く、次いで「学校図書館の資料の充実」が5割を超えている。（問8）

(イ) 障がい等に配慮した資料の充実

- ・日本語を母語としない児童生徒は一定数在籍しているが、母語に対応した資料を「所蔵していない」と回答した割合は、小学校で約7割（73.7%）、中学校で約8割（75.0%）、高校で約5割（53.3%）であった。（問3）
- ・特別支援学級がある小学校、中学校において、小学校は約5割（53.1%）、中学校は約9割（85.7%）で障がいの状態や特性等に配慮した資料を「所蔵している」と回答した。（問5）

(ウ) 公立図書館の利用

- ・児童生徒へ公立図書館の利用等について説明を行っている割合は全校種で高く、特に高校では約9割（93.3%）であった。（問7）
- ・障がい等に配慮した資料について、公立図書館に相談したり、資料を借りる等している割合は、小学校で約4割（41.2%）、中学校で約7割（66.7%）、高校で5割（50.0%）であった。（問6-2）